

拝啓 6月もはや下旬、梅雨時で雨がよく降りますが、お変わりございませんか。いつもエンカウンターをお読みいただきありがとうございます。近所の公園では、数箇所になむの木があり、ピンク色の淡い花が咲いていますが、そろそろ終わりのころです。

今月は、小西先生の「ローマ人への手紙講解説教」の第15回目です。エンカウンターは、大体1冊の本を12回で紹介する方針でやって参りましたが、小西先生のロマ書講解は、既に15回、あと数回続くでしょうが、それだけ引用したいところが多いからです。私たちは先生が身近ですから、気づきませんが、内村先生のロマ書と並ぶ名著であるのかもしれない。今回の最後のページに「信・望・愛は、単数、一つのものの姿」という題のところに、「信望愛この三つは単数で、一つのものの姿です。神の子とせられた信仰、復活の望み、主の名を称え、そして献身。献身とは自分の目の前に置かれた義務をなすこと、これを愛と言う。」とありますが、よくかみしめたいと思います。

6月8日、私が卒業した東大YMCAに招かれ、「南原繁の生涯に学ぶ」という題で、約1時間30分の講演をしました。始めてパワーポイントを使って、スライドを写しながら説明しました。これは、鴨下重彦先生がパワーポイントを使ってされた「矢内原先生の憶い出」と、亡くなられる1週間前、「内村、南原、矢内原—その思想と信仰の現代的意義」の題でされた二つの講演を聞き、自分もいつかパワーポイントを使って講演をしてみたいと思っていました。本誌読者の米倉あけみさんから、「分かり易くてよかった、奥様を連れて来るべきであった」という感想を聴き、人数は約40人と少なかったのですが、学生や主婦の方にも分かってもらえたと思い、大変うれしく思いました。

今、昨年の南原シンポジウムの本の編集をしていますが、そろそろ校了に近づいてきました。今回は、原稿の採否、修正、予約注文の確保など、いつも以上に苦労しましたが、良い本ができるのではないかと楽しみにしています。

高校時代岡山エーデルバイス山岳会のリーダーとして、私達を指導して下さいました竹馬浩さん（外科医）の『母の背中』（日本文芸社）というお母さんの思い出を書かれた本を読み、感動しました。母に対する感謝の気持ちは、誰も同じ様な思いがあると思います。昭和20年6月29日、岡山大空襲のとき、竹馬さんは内山下小学校5年生、猛火の中を逃げた貴重な記録が出ていました。私はそのとき3歳、母の背中に負ぶわれて逃げました。

これから、梅雨も終わり、暑い夏がやってまいります。どうぞ、お身体ご自愛のほど、祈り申し上げます。

敬具

平成25年6月25日

山口周三

エンカウターの読者各位